

日本文学の「女性性」

▶ A5判・240頁／定価2,415円（税5%込） ISBN978-4-7842-1549-2 【2011年2月刊行】

紫式部・清少納言……、世界の文学史上に輝く女性作家たち。『土佐日記』にみられる紀貫之の女語り。日本文学の文学性は、「女性性」と分かちがたく結びついている。日本文学の根底にある「女性性」が近代文学ひいては現代の様々な文学作品の中に受け継がれ、物語を紡ぎだしている。本書は平成18年度から3年間にわたり、日本文学と女性性の問題を正面から議論した二松学舎大学東アジア学術総合研究所の共同研究プロジェクトの成果として、「純文学」からライトノベルまで多様な角度からアプローチした9論文を収録。

内容目次

はじめに	増田裕美子 (二松学舎大学教授)
第一部 「男性文学」の女性性	
三島由紀夫『朱雀家の滅亡』・ジェンダーの観点から	市川裕見子 (宇都宮大学教授)
戦前日本における家庭の抑圧の光景――	
少女とロココ	平石典子 (筑波大学大学院准教授)
――「女生徒」における〈少女〉表象――	
『行人』のお直をめぐる	増田裕美子
第二部 女性による表現世界	
一葉・ウルフ・デュラス	佐伯順子 (同志社大学大学院教授)
――近代日本女性文学の国際性――	
〈母の涙〉の二重性	菅聡子 (お茶の水女子大学教授)
――敗戦後文学としての『二十四の瞳』――	
松浦理英子論――魅惑する鈍感さ――	大貫徹 (名古屋工業大学大学院教授)
第三部 新たな展開	
一九八〇年代の「少女小説」と女性文化の伝統	杉山直子 (日本女子大学教授)
――氷室冴子を中心に――	
少年同士の絆	藤木直実 (日本女子大学等非常勤講師)
――あさのあつこ「バッテリー」をめぐめる欲望と暴力――	
ライトノベルの方へ	目野由希 (国士舘大学講師)
あとがき	佐伯順子

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本文学の「女性性」 本体2,300円（税別）		ISBN978-4-7842-1549-2	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい）		書店番線印		

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

従来、全面的な研究がなされていない幸田露伴について、さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面は 물론のこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチする。国際日本文化研究センター（日文研）で行われた共同研究の成果13篇。

▶A5判・318頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

漱石文学の水脈

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

漱石文学がどのような思想と背景から生み出され、東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたかを検証する10篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究。【内容】Ⅰ〈漱石〉への水脈 佐々木英昭／田中雄次／吉田正憲／西川盛雄／金原理 Ⅱ〈漱石〉からの水脈 西横偉／坂元昌樹／福澤清／徳永光展／溝渕園子

▶46判・280頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1506-5

※谷崎潤一郎と世紀末

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書 1

大手前大学で行われた第62回日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。さらに、谷崎が世紀末のデカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1104-7

ヴィクトリア朝英国と東アジア

川本皓嗣・松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書 3

近代化過程における日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌。【内容】ムスメに魅せられた人々／交差する両洋の眼差し／福沢諭吉におけるW・バショット問題／ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか／中村正直訳『自由之理』と嚴復訳『羣己權界論』／『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の東アジア ほか

▶A5判・280頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1297-3

一九二〇年代東アジアの文化交流

川本皓嗣・上垣外憲一編

大手前大学比較文化研究叢書 6

1920年代日本はいわゆる大正デモクラシーの時代であり、経済の好景気と比較的安定した国際関係によって、海外との交流が新たな展開を見せた時代であった。明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって、明らかにする8篇。

▶A5判・232頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1508-9

中国語圏における厨川白村現象

工藤貴正著

隆盛・衰退・回帰と継続

厨川白村の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏（中国、台湾、香港）の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。日本での評価を受け、大陸・中国の民国文壇の知識人による受容の様相、翻訳された厨川文体の特徴とは如何なるものだったのか、基本的資料を示しながら考察。厨川を軸とした日中台の文学交流史。

▶A5判・378頁／定価6,300円

ISBN978-4-7842-1495-2

新興俳人の群像 「京大俳句」の光と影

田島和生著

昭和8年、京大関係者の俳句雑誌として発足した「京大俳句」。新興俳句運動の旗頭として注目を浴びたが、日中戦争以来の動きの中で会員が治安維持法違反容疑で検挙、廃刊に追い込まれる。本書は、「京大俳句」の成り立ち、新興俳句と日中戦争など、「京大俳句」の盛衰を軸に、新興俳句運動とその時代背景、俳人たちの動静と作品を紹介。

▶46判・294頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1251-5

みやこの近代

丸山宏・伊從勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近現代に大きく変わったまちであった。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようとして開かれた京都大学人文科学研究所「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

夏目漱石における東と西

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書 4

明治の文豪・夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋の概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【内容】小説美学としての〈非人情〉／『吾輩は猫である』におけるメランコリーと神経衰弱／奇人たちの饗宴／漱石の薔薇戦争 ほか

▶A5判・208頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1335-1

漱石と世界文学

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

「世界文学において漱石をとらえなす」という視点のもと、夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石がその後の日本文学を含め世界文学に与えたインパクトや、世界で漱石文学が翻訳のかたちでいかに受容されたのかなどをも見極める9篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。

▶46判・260頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1460-0

視覚芸術の比較文化

武田恒夫・辻成史・松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書 2

源氏物語からラファエル前派まで、日欧の古代から現代までの文学テキストと絵画・工芸などとの関わりを、まるで謎解きのように解いていく。文学と視覚芸術の交差点。【内容】物語絵から物語図へ／文芸を着る／むさしの、そして『武蔵野』まで／ゴッガン作『デ・ハーンの肖像』に描かれた書物／マンチェスター美術名宝博覧会 ほか

▶A5判・256頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1187-X

阪神文化論

川本皓嗣・松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書 5

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた芦屋・西宮など阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【内容】歌枕の詩学／松瀬青々論／昭和初期の神戸における青年団運動について／A・B・ミットフォードと神戸事件 ほか

▶A5判・290頁／定価3,360円

ISBN978-4-7842-1398-6

※美女の図像学

川本皓嗣編

人体や容顔の美はさまざまな文化の中で、それぞれの芸術的表現を与えられてきた。本書は日韓中米の新進気鋭の五人が、女性描写の伝統と美の思想を論じる。【内容】はじめに（川本皓嗣）／光の女（佐伯順子）／ヒロインの図像学（尹相仁）／影の女（アダム・カバット）／ムスメたちの系譜（満谷マールガレット）／朦朧の美学（張競）

▶46判・300頁／定価3,465円

ISBN4-7842-0820-8

※中国文人画家の近代

西横偉著

豊子愷の西洋美術受容と日本

豊子愷は民国期から人民共和國期まで世相人情を反映する抒情漫画や随筆の名手として身辺雑事から文学・美術・音楽などを題材に軽妙な語り口の散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設け、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意味を問うと同時に「文化の越境者」彼の本質に迫り、20世紀日中知的交流の軌跡を検証。

▶A5判・384頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1230-2

光芒の大正

川内まごころ文学館蔵

改造社関係資料研究会編

山本寛彦関係書簡集

大正デモクラシーの幕開けとともに、時代の寵児となった雑誌『改造』を創刊した山本寛彦。川内まごころ文学館蔵の山本寛彦または改造社宛に届いた書簡のうち、『改造』が最も華々しく光り輝いた大正8年（1919）から昭和5年（1930）までの書簡を解説とともに活字化。収録書簡132通、差出人82名の内訳は小説家が最も多く、学者、思想家など。

▶A5判・290頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1459-4

逆欠如の日本生活文化

園田英弘編著

日本にあるものは世界にあるか

西洋にあるが日本にはない「欠如」ではなく、起点を日本においた「日本にあるものは世界にあるか」という新たな方法論による文化比較。

「制度」も内包する広い意味での生活文化のうち、日本に固有と思われる現象について国際比較することにより、鮮やかに見えてくる特性。国際日本文化研究センターで行われた共同研究の成果14篇。

▶A5判・404頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1248-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。